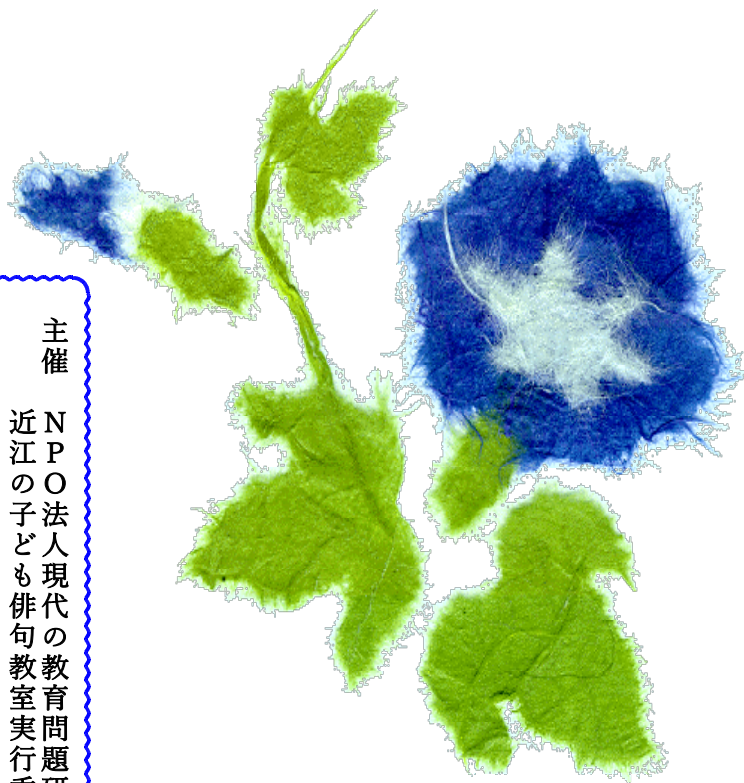


第6回近江の子ども俳句教室

作品集



主催

NPO法人現代の教育問題研究所
近江の子ども俳句教室実行委員会

後援

滋賀県 滋賀県教育委員会
大津市 大津市教育委員会
草津市 草津市教育委員会
滋賀県俳句連盟 FMおおつ
草津俳句連盟 えふえむ草津

まえがき

私たちの団体は「国語力は人間力」という合言葉のもとに活動しています。その企画の中に「近江の子ども俳句教室」があります。俳句を作ったり、友だちの俳句を読んだりすることをすすめている活動です。その理由は？それは、俳句を通して、次の力が育つからです。

一つ目は、まわりの景色や季節の変わり目に気づけるようになることです。「きれいだな」「いいな」と思えることが、だんだんふえていきます。これは、感じる心が育つということです。

二つ目は、小さな音や色にも目を向けられるようになることです。ふだんは見のがしてしまうことにも、「すてきだな」「美しいな」と思えるようになります。これは、やさしい心が育つということです。

三つ目は、五・七・五の短い言葉の中で、「どの言葉がいちばん伝わるかな」と考えることです。まよったり、えらんだりすることが、だんだん楽しくなっていくます。こうして、考える力が育っていくます。

俳句は、見たこと、感じたことを、十七音であらわすことから始めればよいのです。そんな小さな積み重ねの中に、これら三つの力がふくまれています。

また、友だちの俳句を読むと、「こんな見方もあるんだ」「この感じ方、すてきだな」と思うことがあります。そうして、友だちの気持ちを大切にすることも、いっしょに育っていきます。この入選作品集を読んで、「俳句を作ってみたな」「俳句って楽しいな」と思ってもらえたら、うれしいです。

今回の俳句募集には、小学生と中学生のみなさんが、たくさん参加してくれました。勇気を出して応募してくれたみなさん、学校や学級で取り組んでくださった先生方、そして、いつも子どもたちを見守り、はげましてくださった保護者のみなさまに、心からお礼を申し上げます。

令和八年一月吉日

NPO法人現代の教育問題研究所

理事長

吉永 幸司

第6回近江の子ども俳句教室・対面部門

令和七年七月二十六日(土)
キラリエ草津市民総合交流センター

滋賀県知事賞

京都府・京都女子大学附属小学校3年

けんかする 入道雲と 青い空 二上翔伍

じりじりと照り付ける暑い日に、翔伍さんは思わず空を見上げたのです。入道雲が目に入り、しばらくながめていたのでしょう。入道雲はまるで生き物のようにむくむくと上へ上へ伸び上がり、青空を突き破るような勢いです。そんな空と入道雲の力関係を「けんかする」と表現することで、生き生きとした躍動感のある句になっています。入道雲の「白」と空の「青」の色の対比も美しいですね。滋賀県知事賞にふさわしい秀句です。

(好光幹雄…近江の子ども俳句教室実行委員長)

滋賀県教育長賞

滋賀県・大津市立瀬田中学校1年

陽炎が 夕日をゆらす アスファルト 藏野圭一郎

陽炎は春の季語。夕方のアスファルトの道で陽炎が立つのを、圭一郎さんは「これは詩歌的な情景だなあ」と立ち止まってしばらく見ていたのでしょう。まず、その感動に共感しました。この句の表現の素晴らしさは、「夕日が揺れる」情景を、陽炎を主語にして「夕日をゆらす」としたこと。更に「揺らす」ではなく、ひらがな表記の「ゆらす」に換えたこと。ここに圭一郎さんの言葉の感性を感じます。

(森邦博…NPO法人現代の教育問題研究所 副理事長)

佳作

大阪府・吹田市立吹田第一中学校

空蝉よ お前はいつの 忘れ物

1年 鶴田淳悟

滋賀県・大津市立膳所小学校

夏休み 線香花火 友達と

4年 石川未来

滋賀県・東近江市立八日市北小学校

太陽に 向かって歩く ひまわりと

5年 山脇二葉

滋賀県・滋賀大学教育学部附属小学校

海よ海 あつい夏が やって来た

3年 山田巴絵

滋賀県・野洲市立北野小学校

木の枝で 蝉の合唱 響き合う

5年 山本悠太

手花火の 香りなつかし 祖母の家

5年 福永彩乃

滋賀県・大津市立瀬田小学校

ハスの花 ピンクや白が かわいいね

4年 藏野史織

夏の空 打ち上げ花火 夜の虹

4年 村上朋香

京都府・京都女子大学附属小学校

おつきさま キラリキラキラ きれいだな

2年 上田紗良

着物買い せんすあおいで お祭へ

3年 榎原健心

セミとって 一週間で なぜしぬの

4年 浮村聡一

第6回近江の子ども俳句教室・投句部門

投句期間 令和七年十一月一日(土)～十二月十日(水)

滋賀県知事賞

滋賀県・彦根市立高宮小学校 5年

レフトへと 伸びる打球や 夏の風 草野結士

打った人の立場と、野球を見ている人の立場の両方で読める俳句です。私は打った人の立場で味わいました。チャンスの打席に立った結士さんです。ストライクの球が飛び込んできました。打った時の手ごたえと、レフトへ伸びる打球を見送る一瞬。「レフト」「伸びる」の言葉から、その時の結士さんの快い胸の高鳴りが伝わってきました。

(吉永幸司…NPO法人現代の教育問題研究所 理事長)

大津市長賞

滋賀県・東近江市立湖東第一小学校 6年

アスファルト 打ち水しても まだ熱い 河口 駿

打ち水は夏の季語。猛暑の日の午後、打ち水でアスファルトの道路も少しは涼しくできると期待したのに、外れてしまいましたね。中七下五の「くしても まだく」と言う言葉の続きぐあいから、駿さんのその時ののがっかりした思いがひしひしと伝わってきました。裏切られた残念さや驚きまでもが想像できる句ですね。

(森邦博…NPO法人現代の教育問題研究所 副理事長)

草津市長賞

大阪府・吹田市立第一中学校 1年

鎌風に 抗う翼 風見鶏 鶴田淳悟

鎌風(かまかぜ)を大自然の厳しさや西洋という魔的なものの、風見鶏を家を守る小さな守護者として読むと、民話的な世界観を感じさせる句です。擬人化された強風に抗う翼は、何を思い何を目指しているのでしょうか。淳悟さんの若々しい豊かな感性がよく表現されており、今後の人としての広がりを楽しみに思えてくる一句です。

(蜂屋正雄…野洲市教育委員会)

滋賀県教育長賞

京都府・京都女子大学附属小学校 6年

短日の 茜に染まる 下校道 浮村美千子

「今日も学校で、友達と楽しく過ごしたなあ。」そんな思いを持ちながら下校する美千子さんの姿が浮かんできました。「茜に染まる」という表現から、夕ぐれの美しさが伝わってきました。冬になつて次第に日暮れが早くなる「短日」という冬の季語を選んだのも美千子さんの素敵な言葉のセンスです。明日も元気に、背すじをのびし登校できそうですね。

(北島雅晴…NPO法人現代の教育問題研究所)

大津市教育長賞

埼玉県・さいたま市立大東小学校 6年

星冴ゆる 照らしてくる 塾帰り 江草朱莉

煌々と輝く星の中、白い息を吐きながら家に向かう姿が目に見えます。きつと、目標に向かって一生懸命に努力しているところなのでしょう。そんな朱莉さんを励まし、奮い立たせてくれるのがたくさんの星の澄みきった光。心の様子と季語が一体となった力強さを感じました。朱莉さんのセンスが光る一句です。

(少徳 信…彦根市立高宮小学校)

草津市教育長賞

埼玉県・春日部市立武里西小学校 3年

七五三 きれいなきもの にあうかな 中村美結

美結さんは、七五三に着物を着るのですね。きつと、美結さんにぴったりのすてきな着物なのでしょう。着物を着ているすがたを思い浮かべると、に合っているかなとドキドキワクワクしてきますよね。そんな美結さんの気持ちが伝わってきましたよ。おうちの人たちも美結さんの着物姿を見て、かわいいな、すてきだなと思われることでしょう。私も見てみたいですよ。

(山田定子・東近江市立湖東第一小学校)

滋賀県俳句連盟会長賞

滋賀県・高島市立新旭北小学校 3年

羽広げ 虫のとび立つ すがた見た 伊庭幸志

ふと発見した昆虫が、今まさに飛び立とうとする瞬間をとらえたところが見事です。姿が消えたあとも、その光景は残像となって心に残り、小さな衝撃を与えたことでしょう。「はねひろげ」という言葉の選択によって、小さな生き物をもつ偉大な生命力や躍動感が強く感じられます。幸志さんのすぐれた観察力が生きた作品です。

(海東貴利・高島市立マキノ東小学校)

草津俳句連盟会長賞

滋賀県・草津市立笠縫小学校 5年

おおみそか カウントダウン 二秒前 田居祐亮

大みそかの夜は、おそくまで起きていることがうれしいものですね。祐亮さんが家族といっしょにテレビを見ている場面を想像してみました。カウントダウンの「二秒前」というのが、微妙ですね。十、九、八、・・・と数える前に、息を吸い込んだタイミングのように感じます。読み手が、いろいろな想像を楽しめる俳句に仕上がりました。

(三上昌男・滋賀県総合教育センター)

F M おおつ賞

滋賀県・東近江市立湖東第一小学校 1年

くろいたね いっぱいあるよ あけびだよ

夏原結衣

結衣さんの先生のお話をお聞きすると、おうちの人がもってきてくださるやさいやくだものを教室におき、みんなでじっくり見るそうですね。この俳句も、結衣さんの教室の「あけび」をしつかり見て「たねがおおいな」とびっくりしたからできた俳句（はいく）なのですね。食べてみると、またちがうびつくりをしたいと思いますよ。

(高野靖人・NPO法人現代の教育問題研究所 理事)

えふえむ草津賞

滋賀県・高島市立マキノ東小学校 2年

雪だるま 雪玉のせて 成長だ 二川陽斗

陽斗さんの住んでいるマキノは滋賀県でも雪が多い所ですね。俳句から雪が積もると待ちかまえていたように外に飛び出し元気がいっぱい雪だるまを作っていくようすがうかんできます。「雪玉のせて」から雪だるまがどんどん大きくなってできあがった喜びが伝わってきます。「成長だ」にはうれしさいっぱいの陽斗さんの顔がありますね。

(伊庭郁夫・元大津市立木戸小学校教頭)

NPO法人現代の教育問題研究所長賞8句

あの人の 瞳に映るは 桃の花 阪口実玲

埼玉県・さいたま市立大東小学校 6年

桃の花は香りがよく、更に美しいですね。そんな可憐な桃の花が「瞳に映る」とは、なんとロマンチックな表現でしょうか。見つめているあの人は誰でしょうか。気になりますね。そしてこの桃の花とは実玲さんのことでしょうか。6年生らしい少し大人の雰囲気がある素敵な句ですね。

(好光幹雄・近江の子ども俳句教室実行委員長)

満月や 大人になっても ついてくる 木村 光

埼玉県・春日部市立武里西小学校 6年

おれのパパ はらがうきわで 水にうく 島村卓弥

埼玉県・春日部市立武里西小学校 4年

光さんは小さい頃から、どこに移動しても見える満月を不思議に思っていたのでしょね。「大人になっても」の「も」から分かるように、これから更に成長する光さんにも満月は変わらず寄り添ってくれるのでしょうか。決して手の届かない光さんと満月との距離感から、宇宙の壮大さが感じられる神秘的な秀句です。

(高木富也…東近江市立能登川南小学校)

打球が するどく伸びる 天高し 疋田侑太郎

滋賀県・彦根市立高宮小学校 5年

花火果て 静まる海の 夜の深さ 黒川紗良

埼玉県・さいたま市立大東小学校 6年

天高しは秋の季語。澄み渡る空と野球場に響く快音。侑太郎さんが見つめる白球が、吸い込まれるように伸びていく軌道が鮮烈に浮かびますね。「するどく」という言葉からは、選手たちの躍動感や力強いスイングまで伝わってきます。秋晴れの下、白球を追う爽快な一瞬を真っ直ぐに切り取った、清々しい見事な佳句です。

(井上滉斗…滋賀県豊郷町立日栄小学校)

ダイビング キャッチや春の 土匂う 馬場陽大

滋賀県・彦根市立高宮小学校 5年

夕焼けや 試合の後の ハイタッチ 小山 翼

滋賀県・彦根市立高宮小学校 5年

※
先ず、句またがりの高度な技法で躍動的な「ダイビングキャッチ」と切れ字の「や」を生かした見事に脱帽です。陽大さんが野球をしていて、実際にダイビングキャッチをした体験があったからこそ詠めた句ですね。その時の清々しさが「春の土匂う」から伝わってきます。ドラマの一部を切り取ったような鮮やかさで感動的な秀句です。

(好光幹雄…近江の子ども俳句教室実行委員長)

※句またがりⅡ言葉の意味のつながりが五七五の切れ目をまたぐこと。この句の場合はダイビングキャッチ。

ゆったりと水に浮かぶ「おれのパパ」と、それを見つめる卓弥さんの表情が目につかびます。うきわを使わずに浮いている様子を、「はらがうきわで」という七音で見事に表現しましたね。ユーモアあふれる言葉の選び方に、読んでいるこちらにも笑みがこぼれました。夏の思い出を卓弥さんの目線で切り取った楽しい一句です。

(弓削裕之…京都女子大学附属小学校)

普通は花火の華やかさを句に詠みたいものですが、紗良さんは花火の後の光景を詠みました。「静まる夜の深さ」と表現することで、最後までものごとを見極めようとする紗良さんの探求心と自然への畏敬の念までもが伝わってきます。「花火」の華麗な一瞬と「海の夜」の長さとの対比が見事に神秘的な詩情の世界を描いています。

(好光幹雄…近江の子ども俳句教室実行委員長)

夕焼けでグラウンドがオレンジ色に染まる時間まで続いた試合は、翼さんのチームにとってうれしい結果に終わったのでしよう。最後が「ハイタッチ」と表現されていることで、勝利の喜びが一人だけでなく、チームみんなで分かち合っていることが伝わります。翼さんの言葉選びで、チーム一丸となって勝利した試合が伝わるとてもよい句です。

(北川雅士…滋賀県総合教育センター)

お父さん 他の人撮ってた 運動会 池澤歩志

滋賀県・草津市立笠縫東小学校 4年

運動会は年に一度の晴れ舞台。歩志さんのお父さんもカメラを準備して楽しみにされていたでしょうね。そのビデオを見た時に、歩志さんが映っていないくて落胆する様子と、カメラの視点がずれるほど歩志さんの競技に心を奪われている様子が目に浮かびます。自分とお父さんの感情を一句にまとめる表現に、歩志さんの言葉のセンスが光ります。

(畑中翔太..大津市立田上小学校)

佳作

滋賀県・大津市立瀬田中学校

山登り 皆で楽しむ 滝修業 1年 岸場央佑

京都府・立命館中学校

栗きのこ 今日は味覚の 詰め合わせ 2年 奥村涼司

京都府・京都女子大学附属小学校

あかいそら とんぼのおやこが とんでった 1年 川本理穂

京都府・京都市立北白川小学校

運動会 声えん受けて かけぬける 4年 浮村聡一

滋賀県・大津市立瀬田小学校

重箱に いろんな願い つめている 4年 岸場弥咲

滋賀県・草津市立笠縫小学校

冬の朝 起きるときは 布団さなぎ 5年 中島啓貴

滋賀県・草津市立笠縫東小学校

春の朝 あいさつしない 一年生 4年 中川達揮

いもうとが 見たらほしがるねこじやらし

滋賀県・野洲市立北野小学校

ひらひらと 秋風ともに もみじ散る 5年 山本悠太

風にゆれ おどっているのは すすきかな 5年 栗山友愛

寒い朝 弟見ると みのむしに 5年 福永彩乃

滋賀県・大津市立膳所小学校

冬の空 トナカイさんの かけこっだ 2年 岡本玲奈

若草山 紅葉と鹿の パラダイス 4年 石川未来

大晦日 どう過ごそうか 迷っちゃう 4年 岡本圭史

滋賀県・高島市立今津北小学校

風りんの 絵の金魚たち うごくかな 3年 采野悠来

夏休み あそびつづけて さいしゅう日 3年 沢田千隼

ブロッコリー 土ぶとんかぶり そだってる 3年 古田乃斗

滋賀県・高島市立今津東小学校

見つけたよ 落ち葉にかくれた どんぐりを 5年 藤田 花

ダイエット 秋の味覚が じゃまをする 5年 川村 慧太

秋の夕日 みんなで笑った 帰り道 5年 木下七海

もみじの葉 くるくるまっつて 水の上 5年 谷村菜月

滋賀県・高島市立新旭北小学校

虫の声 音楽さいの かいしかな

3年 横江呉羽

たんぽぽで いつものにわで 花あそび

3年 早野凱哉

どんぐりが 木からふってきて いっぱいね

3年 峯浦和花

滋賀県・大津市立逢坂小学校

おいしそう いっぱいぶどう たべたいな

1年 奥村姫奈

秋の朝 ねおきがいいな 風わらう

2年 奥村佳奈

埼玉県・春日部市立武里西小学校

七五三 妹にもらった ちとせあめ

3年 助川 稜

落ち葉はね 風でまいちる 旅をする

3年 服部百花

ブロッコリー やっぱり合うのは マヨネーズ

3年 新幡圭吾

赤とんぼ 夕陽にとけて 風ひとつ

6年 関根唯愛

埼玉県・さいたま市立大東小学校

家出れば クルマの窓が こごえてる

6年 伊野宮惇大

寒暄に 覚めてもまたねて ねぼうする

6年 玉井蒼馬

金木犀 歩くたびに いい香り

6年 椎名琴音

行きたくない 冬期講習は 予約済み

6年 西川陽菜

滋賀県・高島市立マキノ東小学校

冬銀河 きらきら光る 夜の空

2年 美濃 ことか

雪だるま みんながすきな たからもの

2年 坂尻瑛里菜

雪だるま 丸く作って 遊んだよ

2年 磯野萌恵

望月が しずかに光る きれいな湖うみ

5年 藤沢希子

嬉しいな 十個取ったら 栗ご飯

5年 小多彩煌

マスカット 口の中で 爆発だ

5年 鳥居 舞

滋賀県・彦根市立高宮小学校

ゆきだるま のせてこわれて また笑う

5年 小野玲来

思い出を 語ってふける 大みそか

5年 北川咲希

給食に 苦手な野菜 冬の雨

5年 山内健瑠

スマッシュを 決めるイメージ 夏の朝

5年 森岡詩月

帰り道 約束をする 夏の風

5年 金山利那

滋賀県・東近江市立湖東第一小学校

ひがん花 おひさまみたい もえている

1年 青山 雅

あきのそら ふわふわのくも みつけたよ

1年 北村美桜

えみぐりは ぼくらみたいになかよしだ

1年 澤井 結

にじのはし わたってみたいともだちと

1年 山崎絵礼那

夏の夜 空一面に 咲いた花

6年 千藤凜太朗

夏休み 宿題の山 終わるかな

6年 太田亜実

秋の朝 気球が空を うめつくす

6年 山口琉丸

白い息 空にふわっと 広がって

6年 小林葵沙菜

NPO法人現代の教育問題研究所主催の「近江の子ども俳句教室」(投句部門)は、今回で第6回となりました。先ずはじめに、今回も全国各地の学校、ご家庭から、多数の皆様からの俳句をご応募頂くことができ、厚く御礼申し上げます。おかげさまで「対面教室」の優秀作品と「投句」部門の入賞作品を併せた作品集をお届けすることができました。

審査会場では、

「捨てがたい句だ。よいところに着目して描いている」

「感動がピリピリ伝わってくるような句だ」

「うん、この言葉を選んだ作者の言葉の感覚は素晴らしい」

「この句では、こんな手法がうまく活かされている」

などと、投句用紙の句を一つ一つ読みながら、話し合いました。

応募作品を読んでいると、俳句は「五音十七音十五音十七音」の組み合わせで作る短い詩歌ですが、実に豊かな表現ができるのだなと、改めて気づかされました。

この作品集を手に入れたら、クラスの友人やご家族で一緒に読んで「私のいち推し句」を見つけてください。そして感想や好きな理由、特によりなどと思う表現、言葉と言葉のつながりや響き合いの素晴らしい点などを話し合っ共有してみてください。

句の表現を通して見えてきた情景、作者の俳句に込めた思いなどを語り合うひとときを、ぜひお持ちいただけたら光栄です。作る楽しさと同じように、読む楽しさもあることを感じていただけることと思います。

作品集に掲載されている俳句の作者のすぐそばにいるつもりで、

「私ならこんな言葉で書くけど、この表現だともっと楽しいなあ」

「こう考えたり感じたんだらうな、この言葉から分かるよ」

と、言葉を通して互いの思いを分かち合ってみてください。そうすることで「国語の人間力」が育つことを切に願っております。

最後になりましたが、滋賀県知事様はじめ、大津市、草津市、滋賀県教育委員会、大津市教育委員会、草津市教育委員会、滋賀県俳句連盟、草津俳句連盟、エフエム草津、FMおおつの皆様には、開催趣旨をご理解のうえ御後援賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。併せて、事務局よりの問い合わせや確認等につきまして懇切丁寧に対応をしてくださいました、ご家族や各学校の教職員の皆様、ボランティアとして支援賜りました皆様に、実行委員会関係者を代表して心より御礼申し上げます。

令和八(二〇二六)年一月吉日

NPO法人現代の教育問題研究所 副理事長 森 邦博

NPO法人現代の教育問題研究所(理事長:吉永幸司)

『国語力は人間力』

<http://kokugo.npo.com>

この合言葉のもとに基本的な3つの柱で事業活動をしています。

◇国語力・心の教育の指導技術向上及び継承を行う活動

◇国語力・心の教育の実践を広く行う事業

◇国語力・心の教育の重要性を広く周知する活動

①さざなみ国語教室 代表:吉永幸司(国語教師の勉強会)

☆四十四年続く毎月の例会(実践提案で教師力アップを)

☆機関誌「さざなみ国語教室」毎月発行(HPをご覧ください)

②近江の国語実践研究会 事務局:北島雅晴

☆さざなみ国語教室の公開研究会 年2回開催

③国語教育・学校運営・教育相談・大人の俳句等の講座(不定期)

☆全国に赴き、右記に関するセミナー・校内研究指導・俳句指導等を理事長吉永幸司(元京都女子大学教授兼同大学附属小学校長)が中心に行っています。

④近江の子ども俳句教室実行委員会 事務局:好光幹雄

☆夏に公開教室(親子で俳句の詠み方を体験して学ぶ)

☆冬に投句募集(全国からの俳句募集と作品集の発行)

☆子ども俳句の講座(不定期)

日本国語教育学会全国大会での俳句の模擬授業等、滋賀県内外に赴き俳句の授業づくりや模擬授業、出前授業等を行っています。また、文化庁事業としての伝統文化の俳句の普及活動にも積極的に関わり活動をしています。

以上、先ずは気軽にお声かけください。丁寧に対応いたします。

◇お問い合わせ先

◆NPO法人現代の教育問題研究所

〒520-0014 滋賀県大津市柳川2の11の5

077(522)1008 yoshi-a@sunny.ocn.ne.jp

◆近江の子ども俳句教室実行委員会事務局

〒602-0082 京都市上京区上天神町626の16

090(8219)0442 m4432@ymail.ne.jp

